

令和5年度 今泉小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◇基本目標 豊かな人間性をもち、主体的に判断・行動し、自らの向上と社会の発展を目指してたくましく生きる児童を育成する。
- ◇具体目標 1 明るく思いやりのある子（思いやり）
2 自ら考え進んで学ぶ子（創造力）
3 元気で、やりぬく子（体力・気力）
- 合言葉「今泉の子 やさしく かしく たくましく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく 楽しく 喜びいっぱい 心のふるさと今泉小」（キャッチフレーズ）の創造
—家庭、地域の信頼と協力の基、誰もが夢や希望を抱き、喜びややりがいをもって生き生きと生活し個々の力を伸長できる、児童、家庭、地域とともに歩む学校—

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 自ら進んで考え、楽しく学び合う人づくり
・学習のねらいをより具体化・明確化する工夫と、地域教育力の積極的な活用
- (2) 当たり前のことが自然にできる人づくり
・縦割り班活動（にこにこ活動）の充実と、地域ぐるみのあいさつ運動
- (3) 自ら健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり
・体育授業や体育的行事等の充実と、家庭との連携を図った食育の推進
- (4) 愛情や誇りを感じ、夢や希望のもてる学校づくり
・児童が今泉小のよさを実感し、愛情や誇りのもてる学校経営
- (5) 9年間の学びをつなぎ、地域とともに歩む学校づくり
・地域内小中学校、保護者、地域、団体、企業などとの連携・協力体制の構築
- (6) 教職員がやりがいを持ち、生き生きと勤務できる学校づくり

[泉が丘地域学校園教育ビジョン]

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成
～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法令や学習指導要領、とちぎ教育ビジョン2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画、学校教育スタンダード、令和4年度指導の重点、泉が丘地域学校園教育ビジョンを踏まえ、教科横断的な視点を意識しながら編成する。
- (2) 児童がもつ個々の力を伸ばすことを目指し、教育目標、本年度の学校経営方針、重点目標の具現化を図ることができるよう編成する。
- (3) 本校の歴史と伝統を大切に、児童の実態や本校の特色、地域の教育力を生かした特色ある教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○「地域はみんなの学校」を目指し、地域内小中学校、保護者、地域、団体、企業などとの連携・協力体制を構築し、地域の教育力を生かした教育活動による人づくりに努める。
・様々な「ふれあい」と「学び合い」により、たくさんの「よろこび」を味わうことで自信を深め、個々の力を伸長できる学校づくりに努める。
・児童と向き合う時間と質の高い教育を確保するため、校務の適正化と効率化を推進する。

(2) 学習指導

○「自ら考え進んで学び合う児童の育成を目指して」

～子ども一人一人が「学ぶ」喜びを味わうことができる支援の工夫～

- ・児童一人一人が学びを実感し、主体的に学びに向かう授業実践
- ・特別支援教育の視点を踏まえた支援の充実

(3) 児童指導

○家庭・地域・学校園と連携して取り組む安全・安心の学校づくり

～人とのつながりを大切にし、自分の成長を意識できる児童をめざして～

- ・基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成
- ・望ましい人間関係づくりと個に応じた問題行動対策
- ・安全指導の強化
- ・家庭、地域、関係機関等との連携

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

○児童一人一人が主体的に健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり

- ・望ましい食習慣の育成
- ・基本的な健康習慣の定着と体力向上
- ・安全に関する意識の向上
- ・家庭、地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	① 学習の問題をつくり、調べ、考え、話し合う、という問題解決的な学習を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ② 自分の考えを発表できるような場を設けるとともに、自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。 ③ <u>地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」を活用して、児童・保護者に家庭学習について啓発を図り学習意欲の向上を図る。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R5</td><td>87.3</td><td>100</td><td>93.0</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td></td></tr></table> ・教職員・保護者の肯定的回答は数値指標を上回ったが、児童の肯定的回答は数値指標を下回った。 【次年度の方針】 ① 引き続き、学習の問題をつくり、調べ、考え、話し合う、という問題解決的な学習を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ② 自分の考えを発表できるような場を設けるとともに、自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。 ③ 地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」を活用して、児童・保護者に家庭学習について啓発を図り学習意欲の向上を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R5	87.3	100	93.0		R4	※	※	※	
	児童	教職員	保護者	地域															
R5	87.3	100	93.0																
R4	※	※	※																

A2 児童は、思いやりの心
をもっている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、誰
に対しても、思いやりの心
をもって優しく接している。」
⇒児童・教職員の肯定的回答
85%以上

- ① 朝の会や帰りの会で、児童の善い
行いを互いに認め、称賛し合う場
を設定する。
- ② 道徳科において、自分自身を見つ
め人物に共感して自分との関わ
りで考える授業を行う。
- ③ 児童会活動や縦割り班活動を通
して、互いを思いやる心を育む。
- ④ 明確なねらいをもち、幼・保・中・
高・地域の人との交流活動に進ん
で取り組む。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	91.6	100	95.2	100
R4	※	100	96.4	※

・肯定的回答が数値指標を達成した。

【次年度の方針】

- ①②③相手の気持ちを考え、行動できるよ
う、生活場面、学級活動、道徳の時間、
児童会活動において、継続的に指導、
支援をしていく。
- ④ 幼・保・中・高・地域の人との交流活
動において、思いやりの心をもてるよ
うに働きかけたり、活動を設定したり
する。

A3 児童は、目標に向かっ
てあきらめずに、粘り強
く取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケート「私は目標に
向かってあきらめずに、粘り
強く取り組んでいる。」
⇒児童・教職員の肯定的回
答 80%以上

- ① 根気強く取り組むことの大切さ
を学んだり、思いや願いを生かし
た課題を実践したりして、最後ま
でやり遂げられるよう支援する
とともに、児童の取組の様子を各
種たよりや学校ホームページに
よって家庭・地域に発信する。
- ② 児童の自己肯定感を高められる
ように、児童相互に認め合う場を
設け、教職員も認め励ます指導に
努める。
- ③ めあてカード、学習カード、ワー
クシート等の活用により達成感
や充実感を味わえるようにし、更
に意欲を高めるようにする。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	89.2	100	84.3	
R4	90.4	97.6	80.5	

・教職員、児童だけでなく、保護者の肯定
的回答も数値指数を達成した。

【次年度の方針】

- ① 各活動においてめあてを立て、励まし
の言葉を掛けたり支援したりするこ
とで粘り強さを育成し、振り返りでは
達成感を味わえるようにする。また、
児童の頑張りの様子を発信したり、家
庭で学校での頑張ったことについて
の話をする場を設ける機会を促した
りするなどして家庭と連携し、支援し
ていく環境づくりに努める。
- ② 児童同士が相互に認め合う場を設け、
教職員も認め励ます指導に努めるこ
とで、自己肯定感を高められるように
する。
- ③ 各種カードを有効に活用し、活動始め
と終わりを比べて「できる」ようにな
ったことを明確にすることで、次への
意欲につなげられるようにする。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	① 体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。 ② 健康診断の結果を把握し、指導のポイントを明確にし、家庭と連携しながら健康の保持増進に努める。 ③ 日常の給食指導とともに「お弁当の日」を親子で食事を考える機会として、子どもたちの食への関心を高める。 ④ 避難訓練・交通安全教室等，安全教育を通して，自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>92.9</td><td>100</td><td>91.5</td><td>100</td></tr><tr><td>R4</td><td>※</td><td>100</td><td>94.3</td><td>※</td></tr></table> ・肯定的回答が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ① 体力テストや各種検定の結果から体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。 ② ほけんだよりや掲示物を通じ、健康に関する情報を発信し、児童の健康への関心を高める。 ③ 日常の給食指導や校内放送による情報の発信、家庭と連携した食育実践を通し、児童の食への関心を高める。 ④ 安全教育を通して、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。		児童	教職員	保護者	地域	R5	92.9	100	91.5	100	R4	※	100	94.3	※
		児童		教職員	保護者	地域													
R5	92.9	100	91.5	100															
R4	※	100	94.3	※															
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りとの協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学級経営を核に「宮未来キャリア教育」の充実に図り、児童が自らのよさや成長に気づき、周りの人や社会とのつながりを意識できるようにする。 ② 学級活動・児童会活動の充実に図り、児童の考えを取り上げる場を設定し、自己有用感を高める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>89.3</td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td>※</td><td>※</td><td></td><td></td></tr></table> ・肯定的回答が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ① 宮未来キャリア教育や、地域・企業の協力得た社会体験活動を通し、児童が自らのよさや成長に気づき、周りの人や社会とのつながりを意識できるようにする。 ② 学級活動・児童会活動の充実に図り、児童の考えを取り上げる場を設定し、自己有用感を高める。		児童	教職員	保護者	地域	R5	89.3	100			R4	※	※		
	児童	教職員		保護者	地域														
R5	89.3	100																	
R4	※	※																	

A 6 児童は、英語を使って
コミュニケーションして
いる。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答
85%以上

① 研修の充実により、教員の授業力の向上を図るとともに、ALTを効果的に活用した授業を工夫する。

② 生きた英語に触れる機会の充実を図り、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

- ・ALTとの交流の場の工夫
- ・学校行事等へのALTの参加

③ 外国語活動に向けた環境整備の推進に努める。

- ・教材等、備品の管理の工夫
- ・校内掲示の工夫

	児童	教職員	保護者	地域
R5	81.1	89.7		
R4	※	95.2		

【達成状況】

・児童における今年度の達成状況は、目標としていた数値指標を下回る結果となった。また、教職員の数値も、数値指標を上回ったものの、昨年度より5ポイント以上下がった。

【次年度の方針】

- ① 教職員が気軽に実践につなげられるよう、日常で使える外国語のフレーズやALTとの授業の進め方などの研修を行う。
- ② 児童が自信をもって外国語を活用できるようにするために、ALTとの交流の場の工夫を行う。
- ③ 児童の実態に合わせた教材・教具の工夫等、分かりやすい英語授業の環境づくりに努める。

A 7 児童は、宇都宮の良さを
知っている。

【数値指標】

全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答
80%以上

① 生活科や社会科、総合的な学習の時間における「宇都宮学」を通して郷土への愛情と誇りをもてるようにする。

② 特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場を設定し、興味関心を高める。

③ 宇都宮の伝統文化、行事や催しを知る機会を設け啓発を行う。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	80.7	94.9	80.1	
R4	82.3	90.5	78.9	

・全てにおいて数値指標を上回った。保護者に対して取組の周知ができたのだろう。しかし児童の肯定的回答は下がっているため、啓発はしているが興味関心があまり高まらなかったと思われる。

【次年度の方針】

- ① 地域を学ぶ学習を通して、児童が郷土への誇りと愛情がもてるようにするとともに、保護者に児童の様子を今後も発信していく。
- ② ③「宇都宮学」等において充実した指導ができるよう教材研究を行う。また宇都宮の伝統文化を学ぶなど、特別活動（学校行事）等における体験的な学習の場を増やす。

A 8 児童は、デジタル機器
や図書等を学習に活用し
ている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、デ
ジタル機器や図書等を学習に
活用している。」

⇒児童・教職員の肯定的回答
85%以上

- ① 各教科等の学習において、個人用
P C等のI C T機器や図書等を
効果的に活用しながら、児童の主
体的な学習を推進する。
- ② 情報教育主任によるI C T機器
の活用法等の情報発信を適切に
行い、児童の発達段階に応じた指
導を継続的に行う。
- ③ 情報教育主任やI C T支援員、学
校図書館司書と連携し、学習に必
要な教材・教具、図書の充実を図
る。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	86.4	94.9	88.7	
R4	※	100	88.0	

・児童、教職員、保護者の全てで数値目標
を達成したが、教職員の肯定的回答
94.9%に対して、児童が86.4%、保護者が
88.7%となっており、教職員は十分活用し
ているが、児童や保護者は更なる活用を望
んでいることが分かる。

【次年度の方針】

- ① 日々の学習において目的に応じて、
I C T機器や図書等を効果的に活用
するなど、情報活用能力を高める学習
効果の高い活動を充実させていく。
- ② 様々な学習場面でのI C T機器の活
用の仕方やデジタル機器との適切な
関わり方について継続的に指導する。
- ③ I C T支援員や学校図書館司書と連
携しながら、I C T環境の整備や授業
に活用できる図書資料の整備を進め
る。

A 9 児童は、「持続可能な社
会」について、関心をも
っている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、『持
続可能な社会』について、関
心をもっている。」

⇒児童・教職員の肯定的回答
80%以上

- ① 読書活動において、環境やエネ
ルギー、防災などの書籍を紹介し、
日常生活と地球の課題の関連に
気付く機会をもち、継続して指導
する。
- ② 委員会活動や各教科において省
エネ運動、リサイクル活動に取り
組み、環境問題についての関心を
高めるとともに実践力を高めて
いく。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	87.4	82.1		
R4	※	81.0		

・児童、教師ともに、肯定的回答は数値的
指標を達成した。特に教師の数値が上がっ
ていた。

【次年度の方針】

- ① 読書活動における具体的な取組を、次
年度も継続して行う。指導の中で、児
童の実践力を高めて行く。
- ② 委員会活動・学級活動・各教科での活
動において、具体的な取組の実践化を
図る。

3ー(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童の実態を把握するとともに保護者と情報交換しながら適切な支援を行い、互いに個性を認め合い、居がいのある温かな学級づくりに努める。 ② 情報交換会を定期的に行うとともにケース会議を活用し、情報共有と支援方針の共通理解を図る。 ③ 特別支援教育コーディネーターを中心に研修を行うとともに個別支援計画に基づいた支援機能の充実を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>89.7</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td>※</td><td></td><td></td></tr></table> ・数値指標には、わずかに届かなかった。 【次年度の方針】 ① 保護者と情報交換をし、児童の実態把握をした上で、教職員相互が連携し協力した支援の取組ができるようにする。 ② 教職員が連携できるよう、児童に関する情報を周知することを意識し、学校全体で児童に関する情報を共有し、ケース会議等を十分活用することで、更なる情報の共有と支援方針の共通理解に努める。 ③ 個別の支援計画の作成に関する研修を行うとともに、学校生活の様々な場面において、個別の支援計画に基づいた適切な指導・支援ができるような機能の充実を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R5		89.7			R4		※		
		児童		教職員	保護者	地域													
R5		89.7																	
R4		※																	
3ー(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 「今泉小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの早期発見・早期対応や全校体制での支援に努める。また、実際に行っているいじめ対策をより積極的に家庭に発信するよう努める。 ② 学年だより・児童指導だより等に「友達アンケート」についての記載をして、啓発に努める。 ③ 各教科・道徳・学級活動・日常生活の指導を通して、いじめを許さない児童の育成に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R5</td><td>97.1</td><td>100</td><td>85.6</td><td>91.7</td></tr><tr><td>R4</td><td>97.9</td><td>100</td><td>89.8</td><td></td></tr></table> ・肯定的回答は前年度を下回ったが、児童や保護者の意識の高まりが影響していると考えられる。 【次年度の方針】 ① 学年だよりやさくら連絡網等を通じて、関連する取組の保護者への周知を図る。 ② 教育相談週間や友達アンケートを充実させることで、実態把握に努める。 ③ 児童の意識を高められるよう、児童会を主体となり学校全体に啓発する活動を取り入れる。		児童	教職員	保護者	地域	R5	97.1	100	85.6	91.7	R4	97.9	100	89.8	
	児童	教職員		保護者	地域														
R5	97.1	100	85.6	91.7															
R4	97.9	100	89.8																

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 一人一人のよさを認め、励ますような温かい雰囲気の学級づくりに努める。 ② 児童同士がとにかかわり合いをもつ、望ましい人間関係の醸成に努める。 ③ 児童が主体的に活動する場面や、一人一人がよさを発揮して活躍できる場面を設定し、自己肯定感を高められるようにする。 ④ 欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>96.7</td><td>92.3</td><td>92.2</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td>97.6</td><td>97.6</td><td>93.6</td><td></td></tr></table> ・肯定的回答が前年度を下回った。不登校児童数が上昇傾向にあることが影響していると考えられる。 【次年度の方針】 ① 全ての教職員が児童への接し方や学級経営への意識を高める。 ② 週1回の共遊の時間の設定や係活動の充実など、学級の和を高める活動を多く取り入れる。 ③ 児童自身が自分の努力や成長を実感できるよう、様々な活動後に振り返りを行う。また、教員は称賛や励ましの声掛けを多くする。 ④ 打合せ時の情報共有を活発化させ、気になる児童を学校全体で見守る態勢を強化する。		児童	教職員	保護者	地域	R5	96.7	92.3	92.2		R4	97.6	97.6	93.6	
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	96.7	92.3	92.2															
R4	97.6	97.6	93.6															
3ー(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	① 休み時間における「共遊」等、児童と向き合う時間を確保し、実態の把握に努め、意図的な声掛けや面談を行うようにする。 ② 特別支援教育コーディネーターを中心に、情報の共有と支援方針の共通理解を図りながら、保護者や関係機関と連携・協力し、個々の状況に応じた支援を行う。 ③ 教育活動全体を通して、児童の主体的な活動の場を設定し、児童の思いを生かした活気ある明るい学校づくりを推進する。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>96.7</td><td>97.4</td><td>90.1</td><td>100</td></tr><tr><td>R4</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td><td>※</td></tr></table> ・児童、保護者共に、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ① ロング昼休みなどでの「学級遊びの時間」を活用し、児童の実態把握に努める。 ② 学級担任が迅速に情報提供を行い、保護者や関係諸機関と連携・協力し、継続した支援を行うよう努める。 ③ 学級での係活動や学校行事等を通して、児童が主体的に活動できる場を設定するとともに、活動内容の精選を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R5	96.7	97.4	90.1	100	R4	※	※	※	※
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	96.7	97.4	90.1	100														
R4	※	※	※	※														
3ー(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化																		

4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。 ② ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ③ 授業の展開や学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。 ④ TTによる指導や少人数による習熟度別学習を充実させ、個に応じたきめ細かな指導に努める。 ⑤ 今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>97.8</td><td>97.4</td><td>89.9</td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td>97.2</td><td>100</td><td>89.0</td><td></td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答は数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答は数値指標を下回った。 【次年度の方針】 ① 校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。 ② ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ③ 授業の展開や学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。 ④ 学年の実態に応じて、教科担任制や少人数による習熟度別学習を実施し、児童一人一人が分かる授業の展開に努める。 ⑤ 今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。		児童	教職員	保護者	地域	R5	97.8	97.4	89.9		R4	97.2	100	89.0	
		児童		教職員	保護者	地域													
R5	97.8	97.4	89.9																
R4	97.2	100	89.0																
4ー(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学年主任や各教科・領域等主任の組織的な連携を図るために、学校内外のコミュニケーション環境の整備に努める。 ・管理職（副校長）による総合的な連絡調整の実施 ・共通理解を図るために学年主任会の実施 ・校務分掌、授業研究における学年の枠を超えたチーム編成 ② 職員会議や打合せの機会を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>89.7</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td>90.5</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答が指標に達成した。校務分掌、授業研究における学年の枠を超えたチーム編成を行ったことにより、学習指導に対する専門性を高めることができた。 【次年度の方針】 ① 学年主任や各教科・領域等主任の組織的な連携を図るために、学校内外のコミュニケーション環境の整備に努める。 ② 職員会議や打合せの機会を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。		児童	教職員	保護者	地域	R5		89.7			R4		90.5		
	児童	教職員	保護者	地域															
R5		89.7																	
R4		90.5																	

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】
全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答
80%以上

- ① 教職員一人一人が、勤務時間の自己管理を通して、勤務時間を意識した働き方に努める。
- ② 学年や校務分掌のチームで業務の精選を行うとともに、学習情報システムやＩＣＴ機器を有効に活用し、業務の軽減や効率化を図る。
- ③ 「リフレッシュウィーク、リフレッシュデー」を設定し、教職員の意識付けを図るとともに、互いに声を掛け合う望ましい雰囲気づくりに努める。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5		82.1		
R4		※		

・教職員の肯定的回答が指標に達成した。勤務時間を意識した働き方を努めてきてはいるが、学習情報システムやＩＣＴ機器を有効に活用することによる業務の軽減、「リフレッシュウィーク、リフレッシュデー」などについては更に全体で周知するなどして効率化を図りたい。

【次年度の方針】

- ① 「リフレッシュウィーク、リフレッシュデー」を設定。
- ② 学年や校務分掌のチームで業務の精選を行うとともに、学習情報システムやＩＣＴ機器を有効に活用し、業務の軽減や効率化を図る。
- ③ 教職員一人一人が、勤務時間の自己管理を通して、勤務時間を意識した働き方に努める。

B

A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。

【数値指標】
全体アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」⇒児童の肯定的回答
80%以上

- ① 地域学校園共同開催行事を計画的・継続的に実施し、中学生との交流を深める。
- ② 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問、乗り入れ授業の機会を通して、児童生徒の交流と相互理解を推進する。
- ③ 「地域学校園・小中一貫教育」の取組を各種たより等で、家庭・地域に発信していく。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	88.2	84.6	84.3	100
R4	※	※	79.0	※

・児童の肯定的回答は数値指標を上回った。

【次年度の方針】

- ① できることが増えてきたので、より検討を重ねながら、中学生との交流を今年度より深められるよう活動を工夫していく。
- ② あいさつ運動は、中学生と合同で行えるよう中学校と連携をとって実施の方法を検討する。
- ③ 学校として各種便り等を活用し、取組を積極的に発信していく。

B

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	① 今泉小地域協議会、今泉地区コミュニティセンターと連携し、地域の学校づくりを積極的に推進するとともに、学校運営の充実を図る。	B
5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	② 地域協議会・地域学校協働活動推進員等と連携し、 <u>地域人材や地域資料を有効活用した教育活動を推進する。また、保護者にも更にボランティア等の協力を仰ぎ、学校と家庭との連携も強めていく。</u> ③ <u>泉が丘地域学校園との連携・協力をより一層推進し、望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童の育成に取り組む。</u> ④ 学校公開や各種通知、学校ホームページ等を活用し、情報の積極的な発信を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。	
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 教職員の危機管理意識を高め、施設・設備、器具・用具等の定期的な安全点検の実施に取り組む。 (定期点検 臨時点検 日常点検) ② 行政担当課や機動班等と迅速に情報を共有し、施設等の維持管理や改善に努める。	B

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	92.9	89.7	95.6	100
R4	87.4	97.6	87.8	※

・肯定的回答は、数値指標を全て上回った。

【次年度の方針】

- ① 地域協議会、今泉地区コミュニティセンターと連携し、地域の各種団体や学校支援ボランティアの支援を得た取組を継続し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。
- ② 実施内容や方法を工夫しながら、地域の教育力を取り入れた取組を継続し、情報交換していくことで連携を図った活動を実践する。
- ③ 泉が丘地域学校園教育ビジョンである「望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成」に向けて、情報交換を密にして、連携して取り組むようにする。
- ④ 家庭や地域へ情報発信することで、相互理解を図り、更に連携を図った取組ができるようにする。

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5		94.9	90.9	100
R4		100	91.1	※

・肯定的回答は、数値指標を上回った。

【次年度の方針】

- ① 更に、教職員の危機管理意識を高め、施設・設備、器具・用具等の安全点検の実施に取り組む。
- ② 行政担当課や機動班等と迅速に情報を共有し、施設等の維持管理や改善に努める。

6ー(2)
学校のデジ
タル化推進

A20 コンピュータなどのデ
ジタル機器やネットワ
ークの点から、授業（授業
準備も含む）を行うため
の準備ができている。

【数値指標】
全体アンケート「私は、授業
（授業準備を含む）や業務に、
デジタルを積極的に活用して
いる。」
※デジタル・・・一人一台端
末、ミライム、スズキ校務、
さくら連絡網など
⇒教職員の肯定的回答
85%以上

小・中学
校、地域
学校共
通、本校
の特色・
課題等

B1 児童は、時と場に応じ
たあいさつをしている。

【数値指標】
全体アンケート「児童は、時
と場に応じたあいさつをして
いる。」
⇒児童・保護者・教職員・地
域住民の肯定的回答
80%以上

① 教職員が授業で効果的にICT
機器を活用できるよう、ICT支
援員や情報教育主任と連携した
研修を通して、教職員の技能向上
を図る。

② ICT機器、各種システムを積極
的に活用し、教職員同士及び保護
者等との情報の共有化を図る。

① 教職員が率先垂範に努めるとと
もに、校内掲示や各種たより、学
校ホームページ等により児童・保
護者への啓発に努める。

② 児童会主体で、あいさつ運動を計
画的・継続的に推進する。

③ 小中一貫学校園と連携したあい
さつ運動の推進を図る。特に、登
下校時の挨拶の徹底を図るよう
にする。

④ 「友達アンケート」にチェック項
目を入れ、振り返りを行い、児童
の自発的な挨拶を促す。

B

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5		87.2		
R4		※		

・肯定的回答は、数値目標を上回った、

【次年度の方針】
① 一人一台端末の効果的な活用方法につ
いて研究するとともに、それに必要な
教職員の ICT 活用指導能力の向上に
取り組む。
② 各教科領域や学校業務におけるICT
機器を効果的に活用した実践事例
を共有することで学校のデジタル化
に取り組む。

B

【達成状況】

	児童	教職員	保護者	地域
R5	91.6	97.4	88.2	92.9
R4	※	95.2	80.2	88.9

・肯定的回答は、数値指標を全て上回っ
た。

【次年度の方針】
① 各種たより等で児童・保護者・地域へ
の啓発に努める。
②③児童会主体で、あいさつ運動を計画
的・継続的に推進する。（小中一貫学
校園と連携）登下校時の挨拶が積極
的に行えるように声を掛け、自発的な
挨拶を促す。
④ 振り返りを行うことで自分の挨拶に
ついて見つめ直す機会を作る。
⑤ 親子で挨拶について話し合う機会を
もてるよう、学校ホームページ等によ
り 児童・保護者への啓発に努める。

	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 家庭や地域社会との連携を充実させ、「今泉小のあたりまえ」（挨拶・廊下の歩行・次の準備・身だしなみ・言葉遣い）を指針に更なる学級指導や全体への児童指導を通して規範意識を高める。特に「あいさつ」を重点目標とする。 ② 「友達アンケート」に「今泉小あたりまえ五か条」のチェック項目を入れ、振り返りをさせることで、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。 ③ 生活当番による校内の巡視を通して、児童の生活の様子を把握し、全校体制で指導に当たるようにする。	B 【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>94.5</td><td>100</td><td>94.4</td><td>100</td></tr><tr><td>R4</td><td>※</td><td>100</td><td>97.7</td><td>※</td></tr></table> ・肯定的回答は、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学級指導や全体への児童指導を通して「今泉小のあたりまえ五か条」の定着を図るとともに規範意識を高める。特に挨拶を重点とする。 ② めあてをもった取組、振り返りを十分に行うとともに、児童の自発的な取組を更に支援する。 ③ 安全点検や安全指導の徹底を図り、児童が安全で快適に生活できるように努める。		児童	教職員	保護者	地域	R5	94.5	100	94.4	100	R4	※	100	97.7	※
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	94.5	100	94.4	100														
R4	※	100	97.7	※														
	B 3 児童は、学校のよさを実感し、自校への愛情や誇りをもっている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、学校のよいところや自慢できることを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 共に生きる力を育てる活動の充実を図る。 ・縦割り班活動 (なかよし班活動 縦割り清掃) ・特別支援学級と通常の学級との交流 ・体験活動の充実 ② 自他の違いを理解し、尊重し合い支え合う望ましい学級集団づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ 望ましい食習慣の定着を図る。 ・栄養士による授業 ・各たより発行による啓発と家庭との連携 ・お弁当の日の活用 ④ 地域の教育力を積極的に活用し連携を図る。 ・地域の団体・施設と連携した教育活動 ・防災訓練や下校時の見守り	B 【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R5</td><td>84.3</td><td>94.9</td><td>88.9</td><td>100</td></tr><tr><td>R4</td><td>80.9</td><td>100</td><td>89.4</td><td>94.1</td></tr></table> ・児童の肯定的回答は、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ① 特別支援学級と通常の学級との交流及び協同学習を含め、本校ならではの活動、取組のよさを明確にして、より充実感が味わえるよう工夫していく。 ② 帰属意識のある望ましい学級集団づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ 望ましい食生活を図るための各種取組を推進し、更に健康な体づくりのための指導を実施していく。 ④ 学校、家庭、地域の連携を図った取組を推進し、情報を発信していく。		児童	教職員	保護者	地域	R5	84.3	94.9	88.9	100	R4	80.9	100	89.4	94.1
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	84.3	94.9	88.9	100														
R4	80.9	100	89.4	94.1														

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【学校運営について】

- ・A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の設問では、教職員・保護者・地域・児童の全てで肯定的回答は85%以上だった。特に、保護者については、昨年度を大きく上回った。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、積極的に体験的な教育活動を展開してきた結果だと思われる。しかし、教職員については、大きく下回ってしまった。まだまだできること、やるべきことがあったと考えられる。
- ・B3「児童は、学校のよさを実感し、自校への愛情や誇りをもっている。」の設問では、児童の肯定的回答が数値指標を上回り、昨年度と比較しても増加した。今後も本校のよさや自慢できることをはっきりと意識できるような行事の実施方法の工夫や、多くの児童が自慢できることを自信をもって答えられるような日々の学級内での声掛け等が必要であると思われる。
- ・今年度の質問項目は、昨年度から変更されたものが多い。内容的に変わらなくても、「この学校の友達は・・・？」という問いが、「わたしは・・・？」という問いに変更されたものもある。今後は、より一層個の頑張りを認め、称賛、励まし、助言等の支援を効果的に行い、意欲を高められるよう、子どもたち一人一人に寄り添った教育活動に取り組んでいく必要がある。

【学習指導について】

- ・A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」の設問では、教職員・保護者の肯定的回答は90%以上であったが、児童については、90%に届かなかった。A1は、新たな質問項目であるが、その内容は、本校の学習指導の重点課題であり、日々研修に取り組んでいる内容である。一方で、A14「教職員は、分ける授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、児童の肯定的回答は、97.8%と高い数値であり、今後も、自信をもって「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいきたい。
- ・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の設問については、児童と教職員の意識に差が大きい。授業の「振り返り」の充実を図り、児童一人一人に、「できた・分かった」ということを自覚させるような工夫改善が必要である。

【児童指導について】

- ・A2「児童は思いやりの心をもっている。」とB2「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」の設問では、児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答が90%以上であった。また、B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」では、保護者がわずかに90%に届かなかったが、昨年度を大きく上回った。
- ・「今泉小のあたりまえ五か条（あいさつ・廊下の歩行・次時の準備・身だしなみ・言葉遣い）」を意識した学校生活により、きまりを守って落ち着いて生活することができた。
- ・A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」の設問では、児童・教職員・保護者の肯定的回答は90%以上であり、A12「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいききとした雰囲気である。」の設問でも、児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答が90%以上であり、学校の取組が児童・保護者・地域に理解されていると感じられる。

【健康・体力について】

- ・A4「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」の設問では、児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答が90%を上回った。体育指導、給食指導、保健指導、安全指導が充実し、児童の意識を向上させることができた。

7 学校関係者評価

- ・楽しく活発な授業や静かにじっくりと取り組む授業など、いろいろな授業を参観することができた。また、教職員が児童一人一人に向き合い、熱意をもって指導に取り組んでいる姿勢が感じられた。
- ・1年生もパソコンを積極的に活用している。早い時期から身に付けるように、指導していくことが大切であると思う。
- ・四者の肯定的回答に差が大きい項目もあるが、教職員の評価を信じている。今後も自信をもって、学習指導や生活指導に取り組んでほしい。
- ・放課後や休日に、駅東公園等で男女仲よく元気に遊ぶ姿が見られ、うれしく思う。その反面、暗くなっても遊んでいる児童もいて心配である。児童たちへの指導だけでなく、街灯の設置等を地域でも考えていきたい。
- ・下校時に見守りのボランティアをしているが、児童は挨拶がよくできている。また、交通安全に対するマナーもよく、学校の教育の効果が感じられる。
- ・PTAも児童の安全のために登下校の見守りを熱心に行っている。LRTの開通に伴う環境の変化もあり、今後も交通安全指導に力を入れていきたい。
- ・地域での挨拶もよくできている。家に帰ってくる児童には、こちらから声を掛け、よい関係を築くようにしている。
- ・「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」はよく言えるが、「はい」という返事や「ありがとうございます」「ごめんなさい」という言葉が自然に出るようになると、更によいと思う。
- ・保育園との交流活動があったが、児童が一生懸命に活動していた。互いに教育効果は高く、今後も実施してほしい。
- ・今年度は、地域協議会の主催で「教育講演会（親学講座）」を実施したが、250名以上の保護者が参加した。今後も目標の達成に向けて、教職員・保護者・地域が三位一体になって取り組んで行くことが大切である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・教職員の教育活動や児童の様子等について概ね肯定的な評価を得ることができ、ほとんどの項目で数値指標を上回ることができた。今後、学校の自己評価や保護者・児童・地域からの評価、意見を基に次年度の計画について検討していく。
- ・学校の教育活動や児童の様子において、四者の肯定的回答に差が大きい項目も存在する。今後も地域や保護者の思いや願いに十分に耳を傾け連携した取組を積極的に進めるとともに、学校での取組、児童の様子を家庭や地域への確に情報発信することで更に相互理解を図るようにする。
- ・学習指導については、今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、児童一人一人の実態に応じた工夫改善を行うことにより、学ぶことの本質的な楽しさを実感し、主体的に学びに向かう態度を育成できるよう授業改善に取り組む。

- ・児童指導については、今後も「今泉小学校あたりまえ五か条」を積極的に推進・徹底することで、基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成を図っていく。また、教職員が組織的に対応するとともに、家庭や地域、関係機関と連携・協力しながら、取り組んでいく。
- ・健康（体力・保健・食・安全）については、児童が自ら健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう指導の工夫改善をしていく。その中で、困難さへのチャレンジや苦手なことの克服等、自己肯定感やたくましい心の育成につながる活動を重視していく。
- ・次年度も、教育効果を上げる行事・活動を行うために検討・工夫を行い、より充実した学校教育を実践できるようにしていく。